

テラオライテック株式会社



ウガンダ共和国

ウガンダ共和国における日本式合併処理浄化槽導入による生活排水処理改善プロジェクト

事業実施内容

本事業では、ウガンダ共和国における生活排水処理分野の課題解決を目的として、日本式合併処理浄化槽の導入可能性および事業化に向けた基礎検討を実施した。

事業期間中は、現地の排水処理に関する法制度・水質基準・運用実態の調査を行うとともに、関係行政機関、公共施設管理者、民間事業者等へのヒアリングを通じて、現地ニーズと課題の把握を行った。

また、設置候補地の現地視察や水質検査を実施し、排水特性や処理対象規模を確認したほか、浄化槽設置に必要な資材調達の実態調査、現地サプライヤーおよび施工会社の技術力・品質管理体制の調査を行った。

さらに、関係省庁、水関連施工業者、大学関係者等を対象としたステークホルダー向けセミナーをオンライン・オフラインで開催し、日本式合併処理浄化槽の技術的特長や導入効果について情報共有と意見交換を行った。



事業成果

事業期間中に、行政機関、民間事業者、施工会社、大学関係者等へのヒアリングおよび意見交換を実施し、現地ニーズや導入上の課題を体系的に整理した。設置候補地については、計14施設を対象に現地調査を実施し、排水量、敷地条件、維持管理体制等の観点から評価を行った。その結果、5か所に候補地を絞り込み、水質検査を実施した上で、処理対象規模や事業性を踏まえ、最終的に3か所のパイロット導入候補地を選定した。これにより、50~120m³/day規模（約250~800人相当）の処理能力を想定した、具体的な実証導入計画を策定することができた。さらに、関係省庁、水関連施工業者、大学関係者等を対象としたステークホルダー向けセミナーを開催し、オンライン・オフライン合計で約100名が参加した。これらの取り組みは、テレビ・新聞・ラジオ等、計10媒体で紹介されるなど高い社会的関心を集め、行政・民間双方からの具体的な導入相談や協議につながった。

今後の事業展開

今後は、本事業を通じて最終候補地として整理した案件を中心に、JICA Bizやグローバルサウス関連補助金等のスキームを活用し、日本式合併処理浄化槽のテスト設置を段階的に進める計画である。

民間セクターにおいては住宅開発案件を対象とした実証導入を行い、運転実績や維持管理性を確認するとともに、同一ディベロッパーによる次期案件への横展開を目指す。

公共セクターにおいては、市場施設や湖流域周辺施設等を対象としたパイロット導入を通じて、環境負荷低減効果の検証を行い、将来的な本格導入および予算化につなげる。これらの取り組みを通じて、現地パートナーと連携した施工・維持管理体制を確立し、日本式合併処理浄化槽の持続的な普及と、ウガンダにおける生活排水処理環境の改善に貢献していく。